

緑の下の カモチ

空から見ると「どの土地もスゴイ」。
その感動を地元の人に伝えていきたい。

大自然をモーターパラグライダーで飛んで撮影するスタイルを確立し、追求し続ける唯一無二のカメラマン、多胡光純さん。地上50cm〜5000mの空から多胡さん自身が飛んで撮影する映像は、ヘリともドローンとも異なり、風や気流、温度を感じながら人が撮った臨場感であふれている。

大学で探検部に入り、北米のさまざまな地をカヌーでくぐる旅を重ねた。あるとき高い山の上からマッケンジー河を見て、山という限定された場所ではなく、自由自在に空から飛んで眺めたくなった。そこで、飛行錯誤して、モーターパラグライダーに乗りながら撮影するという方法を思いつく。モーターパラグライダーとは、パラグライダーにプロペラエンジンがついた装置で、



雲上をいく多胡光純さん。高度2500メートルを飛行中(カメラ付きシャトルを引っぱって撮影2019年7月)。



回到3時間ほど、燃料が続く限り飛行できる。

「モーターハンクグライダーは飛ぶのに2人必要です。僕は自分一人だけで海外まで運び、現地で組み立てて、飛びたかった。モーターパラグライダーじゃないと実現できなかった。」

第一人者に師事し、2年かけてモーターパラグライダーの操縦をマ



北海道の屋根・大雪山(2290m)。山頂には直径2キロほどのカルデラ「お鉢平」があり、大雪山の雪解け水が見える。その水は石狩川となって北海道中西部を流し、日本海へと流れ出る(撮影2019年7月)



多胡光純さん

1974年埼玉出身。獨協大学在学中は探検部に所属、北米を探検。卒業後もアルバイトをしながら北米の旅を続け、2011年よりモーターパラグライダーを学び、2003年より空撮での撮影を始め、「天空の旅人」の異名をとるようになる。代表的映像にNHK「紅葉列島空の旅」。写真はモーターパラグライダーのエンジンを背負う多胡さん。
<https://www.tagoweb.net>

元の人とその感動を分かち合いたい。その思いでふっ切れました。」
結婚して京都の木津川市に拠点構えた。木津川の源流をはじめ、長崎、マダガスカル、大分。今まで地元の人が見たことがなかった空からの風景を追い続ける。

印象的だったのは北海道の大雪山。雄大な自然が広がる国立公園に隣接する大雪高原には、大雪山の雪解け水を用いた農地が広がる。長さが1辺400mもある大根畑の広大さ、そこを耕すトラクターの巨大さ。上映会は盛り上がった。

多胡さんは、大雪高原の大根は京都青果市場に出荷され、刺身のつまとして高値で取引されたり、漬物として京都の食卓にのびたりしている。京都とつながる不思議な縁。そんな発見がおもしろくて、多胡さんは次の天空に駆り立てられる。

今まで世界7カ国、国内外356カ所の空を飛んだ多胡さん、「どこが一番美しかったですか?」という質問が「一番困る」と笑う。

「どこも等しく美しい。あなたが暮らす土地は、世界の絶景と変わらないくらい素敵な場所です」と伝えるのが自分の使命です。「一生をかけて取り組めます」。

空撮映像が紡ぐ物語を見ると、地元が宝物に思えてくる。多胡さんの目線は今後人々の暮らしを足元から支えていくに違いない。



大雪山の麓、大雪高原(標高700m)には大雪山の雪解け水を用いた農地が広がる。写真中央は大根畑の畝にひかれた温室をつくるためのビニール。その長さは1辺400メートル。写真上部には農地で働くトラクターが点在する。この大根は豪華い基準をクリアし京都青果市場へ出荷されている(撮影2019年7月)。

スター。そして多胡さんは装備をカヌーに積み、マッケンジー河の空を飛んだ。この地を空撮したのは多胡さんが初めてだった。

「空撮映像を地元の人やインディアンの人たちに見せたら、感激が湧き起こった。地形がわかるだけじゃない。そこに住む動物や山の形。地元の人々の暮らしの背景がわかる。その地に住む人々を理解するのに、空撮は最高の方法なんです。」

目新しいモーターパラグライダーによる撮影にテレビや広告制作会社からの依頼が入り、空撮が仕事となった。しかし、仕事の撮影と撮りたいもののバランスに悩んだ時期もある。

「僕は本当のことが知りたい。その地に暮らす人々のために撮影して、高みからの映像を見てもらいたい。地

私も力もちです

モーターパラグライダーによる空撮で、地元の人々にその土地への発見を共有する多胡さんは、そこに住む人の足元を支える緑の下の力もち。多胡さん同様に、三洋化成はさまざまな機能性化学品の提供を通じて、暮らしや産業の様々な分野を支えています。

三洋化成工業株式会社

◎京都市東山区一橋野本町11-1
もよりバス停は「泉涌寺道」

Twitter 始めました

@sanyochemical

こちらから
TAGO channelへ
アクセス



2019年11月1日、
当社は70周年を迎えました。

